



## 三位一体の主日 (ヨハネ 16:12-15)

神はご自身を五感で感じられるようにしてくださった

ここ数年、三位一体の主日に、「御父・御子・聖霊」をそれぞれ黙想するような説教をしてきました。去年は全体的な話で、一去年は「御父」について話していたようですので、今年は「御子」について話してみたいと思います。

私は二十年くらい読書に支障をきたす人たちを支えるボランティアグループの一つ「声の奉仕会マリア文庫」にお手伝いしています。その関係で日本国内のカトリックの声の奉仕グループ間でも録音によるお便りでやり取りをします。すると、会ったことがなくても「長崎で声の奉仕をしている神父さん」という形で、あちこちで知られています。

伊王島の馬込教会でのことです。私を訪ねてきた人がいたので島の中を案内していました。伊王島灯台をはじめ、いくつか回りながら案内していたのです。案内しながら歩道を進んでいると、私たちのほうにやって来る別のグループの一人が、「あっ！マリア文庫の中田神父さんですね？」と声をかけてきました。

何のことか分からず、近づいてその方に聞いてみると、視力に障害のある方でした。県外からたまたま長崎を訪れて、伊王島にはマリア文庫の録音の便りで声を寄せてくれる中田神父がいるから訪ねてみようということになり、伊王島まで来ていたそうです。

私は、近づいてくるかたが誰なのか知ることは出来ません。しかしその方は私の声によって、ふだん録音物を通して親しみを持っていた中田神父が自分の前に立っていると気付いたのです。「目の前に」と言いたいところですが、「目の前」は適切ではないかも知れません。

この時、ある人には「見える姿」がその人が誰であることを確かめる決め手になりますが、ある人には「声」が、その人が誰であることを確かめる決め手なのだとして理解したのです。その人は背格好とか、身なりで私を確認できできませんでした。声が捜し当てる拠り所となったのです。

三位一体は、御父と御子と聖霊が唯一の神であることを教えるものです。先ほどの私の体験と重ねると、御子は「声」と言えるかも知れません。その姿を見ることができなくても、声が間違いなくその方だと教えてくれる。そういうことではないでしょうか。

「声」は、それだけが存在するわけではありません。声を発するかたがいます。声を発するかたと声は、お一人のかたを表しているでしょう。姿形を捉えられない父である神が、御子を「声」として送ってくださった。三位一体の御子の働きは、そういうことではないかと考えたのです。

三位一体の神の働きについて、何か一つでも人に伝えるきっかけがあれば。中田神父はそう思って、この主日を迎えています。キリスト教の教えは説明がとても難しいものが多々ありますが、その中でも極めつけ難い三位一体の神秘を、私たちが味わい、信じ続けることができるように、恵みを願いましょう。今回のたとえば、皆さんの信仰理解の一助となりますように。